

集落の主体的な鳥獣害対策の実施と継続により、農村環境の生物多様性を保全する活動

活動地域 福島県

ひろげる助成

3年目

調査研究

支援2集落における
報告会の開催

2回

支援2集落における
希少種総出現数

54種

今年度計画の達成度

90%

目標達成度

80%



調査報告会の様子

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス対策として、対面による報告会等、情報のフィードバックを紙面に変更したが、一方通行の情報提供にしかならず、双方向からの意思疎通が図りづかった。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍での対面報告会開催に向けて、開催可能な基準を探った。報告会のための集まりにはなかったが、地区の集会との抱き合わせで実施など、住民と調整した。

課題

鳥獣害対策は短期的に解決できる問題ではないため、対策の継続性が重要であるが、実践できているところは少ない。また、農村環境の荒廃から生物多様性の減少も危惧される。

目標

集落の主体的かつ継続的な鳥獣害対策の実施が、農村環境の生物多様性保全につながるプロセスモデルを確立する。

活動内容と成果

- 支援2集落を対象に、獣による被害調査及び被害対策の効果検証について過年度比較のための調査を実施した。結果は、両集落ともに被害金額・面積が軽減していたが、対策改善に向けての課題が見えてきた
- 各集落で植物、鳥類、哺乳類、両生・爬虫類、魚貝類、水生昆虫類、陸生昆虫類の生物相調査を実施した。両集落延べ1,126種が出現し、そのうちレッドデータ掲載種(国・県)が54種確認された
- 支援2集落に対して、上記調査結果の報告会を実施した。その結果、対策の改善点などが活発に議論された



侵入防止柵の設置により被害がなかった水田



設置した巣箱で確認されたムサビの親子

全助成期間の活動を振り返って

本活動において掲げていたプロセスモデルを確立するためには、住民が豊かな自然環境は集落の魅力の一つとなることを理解することが大前提として必要であるが、その点についての成功法を見出すことはできなかった。

しかしながら、鳥獣害対策と生物多様性の繋がり、及び、鳥獣害の最前線となる谷津田等が生物多様性の宝庫であることも再確認できた。今後は、地域の魅力を住民が理解し、行動変容に繋げていくことが課題である。

〒969-3302
福島県耶麻郡磐梯町大字更科字権現森45番地
電話：0242-73-3071
E-mail：info@ohderasu.com
HP：https://www.ohderasu.com/

今後の
展望

プロセスモデル確立に向けた新たな課題について次のステップを検証し、集落の主体的かつ継続的な鳥獣害対策の実施と生物多様性を結びつける地区を増やしていく。①聞き取り調査により集落の動機(動くきっかけ)を探る⇒②動機に応じて、集落のキーマンと繋がる⇒③動機づけを行う(情報発信)⇒④集落のキーマンと活動内容を一緒に作り、当事者にしていく。